

- 1 日 時 令和 4 年 4 月 28 日 木曜日
開会 10 時 00 分 閉会 11 時 30 分

- 2 場 所 京都市総合教育センター 第 1 研修室

- 3 出席者 教 育 長 稲田 新吾
委 員 奥野 史子
委 員 高乗 秀明
委 員 笹岡 隆甫（オンライン出席）
委 員 野口 範子
委 員 松山 大耕（オンライン出席）

- 4 欠席者 なし

- 5 傍聴者 1 名

- 6 議事の概要
 - (1) 開会
10 時 00 分、教育長が開会を宣告。

 - (2) 前会会議録の承認
第 1469 回京都市教育委員会会議の会議録について、教育長及び全委員の承認が得られた。

 - (3) 議事の概要
 - ア 議事
議案 4 件，報告 1 件

 - イ 非公開の承認
議案 4 件については、市長の作成する議会の議案に対しての意見の申出に関する案件であり、京都市教育委員会会議規則第 3 条に掲げる「非公開事項」に該当するため、京都市教育委員会会議規則に基づき、非公開とすることについて、全員の承認が得られた。

 - ウ 非公開の宣言
教育長から、議案 4 件について、会議を非公開とすることを宣言。

 - エ 報告事項

(事務局説明 加藤 教職員人事課担当課長)

令和4年度に実施する京都市立学校教員採用選考試験については、すでに要項を発表しており、出願を受け付けているところである。採用予定数は245名程度を予定しており、前年度と比べると100名程減っている。採用できる人数は、退職者数に影響される部分が大きく、京都市の教員の年齢構成上、いわゆる大量退職のピークを超え、退職者数が減少することが人数減に影響している。また、少子化が進んでおり、中長期的に見て必要な教員の数自体が減っていく見込みから、採用予定数としては減らしている。出願区分ごとの採用数としては、小学校教諭100名程度で、そのうち幼稚園は若干名、また中学校教諭は全10教科で採用を継続し、60名程度、高等学校教諭は7教科で15名程度、総合支援学校は50名程度、養護教諭10名程度、栄養教諭は若干名を予定している。また、特別選考の内容に変更はないが、フロンティア特別選考は採用予定数を少し絞っている。

主な試験日程に関してであるが、志願書受付については5月9日(月)正午までであり、現時点では120名程度に出願頂いている。例年、出願期間の終わりに向けて提出数が増える傾向にあるので、今後の出願数を注視してまいりたい。その後の試験日程や試験会場については、昨年度と大きく変わりはない。なお、第1次試験の一般教職教養試験については、新型コロナウイルス感染症対策のため、昼食を挟まないよう試験時間を工夫し、過去2年間は中止していたが、本年度は実施予定である。

試験制度等について、本市への志願につながるよにという趣旨で何点か変更を行う。そのうち、第2次試験で実施する模擬授業の課題提示について、当日指定から事前指定とする。受験者の負担軽減につながるのと同時に、当日の試験時間として、指導案作成に充てていた分を模擬授業の時間等に充てることにより、受験者の指導力等を見ていく時間を確保したい。なお、高等学校と総合支援学校教諭を除いている理由は、当日指定された課題に対して、どのように実践できるかを確認することにより、それぞれに求められる専門性の理解や対応力を判断したいためである。

広報及び魅力発信についてであるが、全国的に教員不足が課題となっている。そうした中、本市ではHPで様々な情報を発信するとともに、公式LINEアカウントを開設し、タイムリーな情報提供を行っているところであり、現在までに1086名に登録いただいている状況である。また、現任教員にインタビューを行い、「教師のやりがい」や「京都市で働く魅力」等についての動画配信を行っている。本日は、一例として、「幼稚園編」について御覧いただく。

(動画配信)

この他にも「小学校編」や「中学校編」など他の校種や、「恩師の背中を追いかけた編」、「制度説明編」なども配信している。また、対面式の採用選考試験に係る説明会も実施しており、4月23日の説明会では約100名に御参加いただいた。さらに、約400の大学に対し、メールにて採用に関する情報の発信を行っている。

なお、昨年度に行った本市の教員採用選考試験においては、1768名に志願いただき、307名を採用し、採用倍率は5.8倍であった。令和2年度実施試験における全国での採用倍率は約3.8倍となっており、全国平均よりは高いものの、校種や教科でみるとそれぞれ差がある状況である。

次に、医療的ケア担当教員採用選考試験について説明する。医療的ケアが必要な児童生徒が増加する中で、医療的ケア実施体制の一層の充実を図るため、看護師免許を持つ方を対象に担当教員の採用選考を行う。令和2年度から実施しており、今回で3回目の実施となる。特別免許状制度の活用により、教員免許を所有しない方の受験も可能となっている。当教員の主な職務内容について、教員や看護師への指導・支援など間に立つような役割を担っていただく。採用予定数は若干名としており、受験資格としては、重症心身障害児の臨床試験3年以上などを設けている。主な試験日程は、先に説明した教員採用選考とは異なる。なお、これまで3名を採用してきており、それぞれ総合支援学校で活躍いただいている。

(委員からの主な意見)

【笹岡委員】採用予定数が減っているが、他都市の状況はどうか。受験者にとって、採用されるには、今までよりも狭き門となっているのか。また、新型コロナウイルス感染症による欠席のフォローはどのように行っているのか。

【事務局】他都市の採用予定数に関しては、京都府は約50名減だが、ほぼ横ばいの都市が多い。教員の年齢構成等が自治体によって異なることによるものだと考えている。

また、新型コロナウイルス感染症による欠席のフォローについては、第1次試験においては救済措置は無いが、第2次試験においては、昨年度に感染症の影響により欠席となった者には、今年度の第1次試験を免除する。

【稲田教育長】過去には、小学校教諭が約20名の採用数ということもあったが、当時本市で採用されなかった方が、他府県で現職として経験をされた後に、本市の採用試験を合格された方もいた。

【奥野委員】年齢構成に偏りがあると、採用数の増減が極端になるため、教員数が適正となるように御留意いただきたい。採用数が減ったことに関しては、一般的には良いイメージとはならないので、その理由について丁寧な説明を心掛けていただきたい。

また、総合支援学校教諭の受験希望者増に向けた取組について、今回の試験で受験資格が緩和されているが、他の手立ても検討し、より有為な人材の確保につなげていただきたい。看護師免許を持った医療的ケア担当教員の募集についてはどのように広報し、募集をしているのか。

【事務局】対面式の説明会や大学での説明会の中では、採用数減に関する説明は行っているところではあるが、不安をあおらないようにすることが重要であるので、今後も説明に努めてまいりたい。

総合支援学校教諭の受験希望者増に向けて、大学訪問の中で4年生だけでなく、2・3年生も対象とした説明会を行っていく予定である。看護師免許を持った医療的ケア担当教員の募集については、ナースセンターへの求人登録等を行っているが、一方で、病院での説明会開催はなじまないなど、一般の教員採用と比べて広報活動上の制限があり、今後の検討課題である。令和2年度に初めて募集した際は、報道などの影響もあり、比較的多くの方に受験いただいた経過もあるので、報道機関への広報も積極的に行ってまいりたい。

【野口委員】医療的ケア担当教員の志願者数について、令和2年度実施から令和3年度実

施を比較すると、減っていることが気になった。新型コロナウイルス感染症の影響で医療機関が大変だったことも影響しているかもしれないが、うまく情報を伝える工夫が必要だと考える。

【高乗委員】受験希望者について、新卒と既卒の割合は。教員採用の広報については、大学1・2年生からの働きかけが重要だと考える。本市の場合は、京都教師塾の取組や学生ボランティアが教育に関わるなど特色ある取組みを行っている。そうした中、教師塾の塾生や学生ボランティア数が減ってきているが、どのように捉えているか。学生ボランティアを受け入れている学校においては、京都市の教員の魅力を、現場の活動を通じて直に発信できるので、ぜひアピールいただきたい。

【事務局】昨年度の受験希望者の内訳は、新卒が3割、常勤講師が6割、他都市の現職教員が1割程度である。常勤講師については、本市で務めておられる方が多い。教師塾の塾生や学生ボランティア数も含め、教職を目指す者が減少傾向にあることは気になっているところ。学校で働くことの魅力の広報に努めたい。

【稲田教育長】年度当初に学校管理職を対象にした研修の中で、校長先生自身が教育という営みに携わることの素晴らしさ、魅力を各学校の教育活動に関わってくれている皆さんに発信していただきたい旨をお伝えしたところ。そういった環境づくりに向け、教育委員会としても、教員の養成・採用・育成の各段階で、全力で取り組んでいく。

【松山委員】魅力発信の動画に関して、お寺の見学や伝統文化体験などもう少し京都感が出ればよりよくなると思う。また、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、今後、子どもの出生数はさらに減っていく状況が予見される。児童生徒数が減るので、教員数が減っていくことは仕方ないと思う一方で、担任が産休・育休や休暇に入った時に対応する先生など体制をサポートできるように教員数を確保すべきである。決まった定数以上に採用することは困難なのか。

【事務局】魅力発信の動画については、今後は、教員の1日の生活などを切り口とし、京都らしさにも触れた魅力発信を行っていきたい。
休暇等に伴う代替講師の配置に関しては、産休取得者が出産休暇を取得する前から先行して常勤講師を配置したりしている。また、講師確保の取組については、教員採用選考試験の受験者に対し、試験終了後、直ちに講師登録を呼びかけたりしているところである。正規教員数については、児童生徒数が減少すると教員定数も減少することから、採用計画についても慎重に検討を重ねている。

【稲田教育長】義務教育の教員配置については、国が給与負担しており、法定された教員定数以上に採用しようと思うと市単費での負担となる。

【笹岡委員】魅力発信の動画に関してだが、奈良県では、学校教育の一環としてお寺の掃除にいくと聞いており、京都市でもそういった地域ならではの取組をからめて発信すると良いと考える。

【稲田教育長】本市では、小学校全校で茶道体験を、中学校全校で華道体験を実施しており、こうした伝統文化体験の取組も絡めて発信してまいりたい。

オ 議決事項

議案4件については、市長の作成する議会の議案に対しての意見の申出に関する案件のため非公開

(3) その他

○教育長から、前会会議以降の主な出来事等について報告

- 4月 1日 新規採用教職員発令式
- 4月 4日 竹の里小・福西小統合式
- 4月 4日 石田小・小栗栖小統合式
- 4月 5日 市原野小・静原小統合式
- 4月 7日 京都市立学校・幼稚園入学（園）式
- ～4月11日
- 4月14日 全市校園長会

○事務局から当面の日程について説明

(4) 閉会

11時30分、教育長が閉会を宣告。

署名 教育長